

ふくしま農業女子ネットワーク 農女びより



ベリーベリー園で愛情込めて育てられたブルーベリー



◆ふくしま農業女子ネットワーク(愛称:百笑一姫♡Fukuがある) 農業女子同士の交流・連携を深め、技術の向上を図ろうと、県内の女性就農者や就農希望者65人で構成。福島民報社をはじめ、県内の30企業・団体が「応援団」として登録している。農産品を使っ た加工品の共同開発や情報発信、経営力向上、販路拡大などに連携して取り組む。メンバー、応援団となる企業・団体を随時募集している。URLは<https://www.fuku-girl.jp/> 問い合わせは事務局 県農業担い手課 電話024(521)7340へ。



城じょう 清里仲せりなさん(郡山市)

青い果実に愛込めて

3人の子どもを育てながら、郡山市片平町でブルーベリー作りをしています。大変ですが、楽しいこと、幸せな時間もいっぱいあります。

大学進学を機に上京し、都内で助産師として働いていました。命を扱う緊張感や昼夜逆転の勤務、さらに、自身の結婚や引っ越しなどが重なり、体調を崩し、がんを患ってしまいました。苦しい抗がん剤治療の後、体力が戻らないまま妊娠、出産し、子育てに突入。第1子出産後は不眠症に、第2子の時は産後クライシスに陥りました。

うつうつと過ごす中で出会ったのが、ブルーベリー園での摘み取り体験。ブルーベリーの甘みや酸味、香りに大地のパワーを強烈に感じ、心

身が晴れやかになりました。こんな風においしいブルーベリーを作りたい！初めて農業を意識するようになりました。環境と仕事内容を整えれば、子どもたちを見ながら一緒に作業でき、かげがえのない価値を創出できる農業は、とても魅力的に思えました。昨年就農し、手探りのブルーベリー栽培が始まりました。

酸っぱいものが苦手な甘党の私も子どもたちが安心して食べられるブルーベリーを目指し試行錯誤する中で、ポットと特種な培土、液肥による「養液栽培」というものを知りました。実践している園地を見学し、実際に実を食べてみて、味が濃く粒ぞろいといった品質の高さに驚き、即導入を決めました。東北ではまだ

例が少なく、コストのかかる栽培方法ですが、「多くの方に最高においしいブルーベリーを食べていただきたい」の一心で、毎日愛情を持って育てています。

7月に少量ですが出荷を始めることができ、2021年夏には摘み取り園のオープンを目指しています。ぜひ、楽しみにしていてください！

【プロフィール】 神奈川県生まれ、郡山市育ち。助産師、保健師、看護士の資格を持つ。市内の実家で両親と3人の子どもと暮らし、夫は関東で単身赴任中。2018年11月「郡山ベリーベリー園」を開き、ブルーベリーのほか、ラズベリー、ブラックベリーなど約400本を養液栽培。4000平方メートルに800本に栽培規模を拡大するのが目標。ホームページ<https://kori.yama-blueberry.jimdo.com/> 情報発信中。